

粕谷和夫の観察日記より。八王子・長池公園の池に今年もオシドリが帰って来ました。未だイチヨウ羽根は生えていません。オシドリは身を隠すためか、池の隅にいました。よく見ると開いたクチバシの中にドングリののようなものが入っています。オシドリは、ドングリが大好物で丸呑みして食べます。

紅葉台



新聞

第208号

2025年

11月15日

発行人：関谷 孝

湧水散歩 武蔵小金井から国分寺まで



東京には湧水がたくさんあります。「東京の名湧水57選」に選定されている国分寺崖線＝ハケを歴史に詳しい植木裕子さんの案内で探訪しました。武蔵小金井駅スタートで国分寺に向かい歩きます。(10月20日)

武蔵小金井駅近くにお地藏さんがあります。この町が水の豊かなところであることを

象徴しています。「小金井」の地名は「黄金に値する豊富な水が出ることから黄金井＝小金井になった」とのこと。市の南部を東西に走る国分寺崖線の崖を地元では古くから「はけ」と呼び、「はけ」からは随所に湧水が見られます。この湧水が野川に集まり、多摩川に注いでいます。

また、少し離れたところには、「**六地藏・黄金の水**」があります。1707年(宝永4年)に奉納された「六地藏」は六角形の石柱の側面に六道(地獄・餓鬼畜生・修羅・人間・天上)の苦しみを救う地藏菩薩が彫られています。また、100mの深さから汲み上げる中硬質の地下水は飲むことが出来、「黄金の水」として地域に親しまれています。蛇口があり500円を払うことで水を汲むことが出来ると書いてありました。



国分寺方面に向かい連雀通りを歩くと木々が鬱蒼とした「**滄浪泉園**」があります。ここは、明治大正期に、三井銀行などの役員、外交官、衆議院議員等を歴任した波多野承五郎の元別荘。武蔵野の特徴的な地形と森、豊富

な湧水を巧みに利用した庭園です。その名の由来は、犬養毅元首相によって名付けられたもので「俗塵に汚れた心を洗い清める、清々と豊かな水の湧き出る泉のある庭」との意味があるといえます。入り口の石の門標は、犬養毅自らの筆によるもので刻まれています。園内は今でも武蔵野の面影を十分にとどめ、鬱蒼と茂る樹林内は、コゲラ、メジロ、ヒヨドリ、ウグイス等、野鳥の鳴き声が1年中耐えることなく聞こえます。大きな池には今でも崖線の岩の間からこんこんと水が湧いています。この日は蚊の大群がいて早々に引き上げました。秋にはモミジが色づいてきれいなのではと思いました。行くなら夏は避けたほうがよさそうです。(火曜日休み)
滄浪泉園は、昭和52年東京都の緑地保全地区の指定・買収を受け、都民の財産として残されました。現在は約1.3ヘクタールが特別緑地保全地区に指定され、貴重な自然環境を守っています。

国分寺方面の出口から貫井トンネル上に出ると、はけ上遺跡の看板があります。旧石器時代から縄文時代にか

けての集落跡などが発掘されています。水が豊かな地域には大昔から人が住んでいたことが良く分かります。



次は名水指定の「**貫井(ぬくい)神社**」。地元の神社です。神社の創建は1590年。水の神である弁財天を祀ったのが始まりで、貫井弁天とも呼ばれています。枯れ



ることのない湧水が、本殿西側の崖裾の岩間に湧き出し池を満たしています。社殿の前には御神池があり、水は清らかで、立派な鯉がたくさん泳いでいました。その水が勢いよく流れ、野川に注いでいます。



そこから数分で東京経済大学キャンパスの南門へ。名湧水指定の「**新次郎池**」が森の中に静かに佇んでいます。池の名前は北沢新次郎(元学長)の名前からつけられたものです。

ここも水面の周囲に湧き口があり、野川に注いでいます。2020年に大学と地域を結ぶ水辺の憩いの場(親水空間)として池の周りにウッドデッキが整備され、一般に開放されています。お弁当をもってここでのんびり過ごすのもいいところです。



野川沿いには、大きな桜の木々があり、春にはたくさんの人で賑わうそうです。この日はカルガモがのんびり水草を食べていました。

そこから西の久保通りを歩き「**マザーズキッチン**」で地元野菜たっぷりのランチ1000円。個人のお宅を改造したアットホームなレストランでした。外国の人や近所の人も来ていて地元の人たちに愛されています。

その後は国分寺駅に向かって歩きました。途中「湧水の道」と書かれた石碑があり、水が豊富などところだと改めて思いました。水を巡る散歩は歩くことで発見する楽しさがあります。



粕谷和夫の観察日記



シュウカイドウの花のアップです。この花は江戸時代初期に日本に持ち込まれて以降、園芸用として栽培されていましたが、今ではすっかり雑草化していて、湿り気のある明るい日陰に繁茂していま

す。この写真は手入れをしていない我が家の庭で夏の終わり頃から咲き出し、10月の今でも咲いています。

「秋海棠西瓜の色に咲きにけり」 芭蕉

紅葉台新聞は、「高尾フモト同盟」のHPに公開されています。高尾の情報や働く人たちが紹介されています。興味を持った方は、覗いてみてください。また、皆様からの情報や投稿もお待ちしています。